

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
鹿児島キャリアデザイン専門学校		昭和63年12月19日		東 祐二		〒 891-0141 (住所) 鹿児島市谷山中央二丁目4173番地 (電話) 099-267-2411				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人原田学園		昭和34年10月20日		原田 賢幸		〒 891-0141 (住所) 鹿児島市谷山中央二丁目4118番地 (電話) 099-268-3101				
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化教養専門課程		グラフィック科(2Dコース)		平成 27年度		平成 29年度			
学科の目的	グラフィック業界で必要とされるコンテンツ制作の技術、知識や柔軟な思考力・豊かな人間性を有し、さらに創造力・リーダーシップ・問題解決力に優れた、クリエイター業界にとどまらず社会が必要とするエンターテインメント性を有する人材を育成する。									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能資格:色彩検定1~3級, UC級 中退率:8.6% 色彩検定協会 2022年度表彰団体(専門専修学校・其他学校の部) 色彩検定協会奨励賞 第20回全国理美容学校「kawaii」選手権大会 イメージキャラクターデザインオープンコンペ 優秀賞受賞									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼	※単位時間、単位いずれかに記入	1,710 単位時間	225 単位時間	225 単位時間	1,260 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)						
80人の内数	40人	0人		0%						
就職等の状況	■卒業生数(C)		14人							
	■就職希望者数(D)		12人							
	■就職者数(E)		12人							
	■地元就職者数(F)		7人							
	■就職率(E/D)		100%							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		58%							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		86%							
	■進学者数		0人							
	■その他									
			(令和 4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)							
		■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) デザイン業界(雑誌編集, ポスター・チラシデザイン, 看板デザイン等)、印刷業界(商業デザイン, 看板デザイン, 印刷オペレーター等)								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無					
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL					
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/subject/gra/">URL:https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/subject/gra/</a>									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)									
	総授業時数		270 単位時間							
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		90 単位時間						
		うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間						
		うち必修授業時数		270 単位時間						
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		90 単位時間						
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間						
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間						
		(B: 単位数による算定)								
		総授業時数		単位						
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位						
		うち企業等と連携した演習の授業時数		単位						
		うち必修授業時数		単位						
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位						
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位						
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		2人							
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		3人							
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人							
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人							
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人							
	計		5人							
		上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2人						

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地					
鹿児島キャリアデザイン専門学校		昭和63年12月19日		東 祐二		〒 891-0141 (住所) 鹿児島市谷山中央二丁目4173番地 (電話) 099-267-2411					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地					
学校法人原田学園		昭和34年10月20日		原田 賢幸		〒 891-0141 (住所) 鹿児島市谷山中央二丁目4118番地 (電話) 099-268-3101					
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度					
文化・教養	文化教養専門課程	グラフィック科 (3Dコース)		平成 27年度		平成 29年度					
学科の目的	グラフィック業界で必要とされるコンテンツ制作の技術、知識や柔軟な思考力・豊かな人間性を有し、さらに創造力・リーダーシップ・問題解決力に優れた、クリエイター業界にとどまらず社会が必要とするエンターテインメント性を有する人材を育成する。										
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能資格:色彩検定1~3級, UC級 中退率:6.7% 色彩検定協会 2022年度表彰団体(専門専修学校・其他学校の部) 色彩検定協会奨励賞										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技			
2年	昼	※単位時間、単位いずれかに記入 1,710 単位時間 単位		225 単位時間 単位	225 単位時間 単位	1,260 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位			
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)						
80人	9人		0人		0%						
就職等の状況	■卒業生数(O)		5人								
	■就職希望者数(D)		2人								
	■就職者数(E)		2人								
	■地元就職者数(F)		1人								
	■就職率(E/D)		100%								
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		50%								
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		40%								
	■進学者数		2人								
	■その他										
	(令和 4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)										
■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 設計デザイン、技術職											
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無		評価結果を掲載したホームページURL						
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/subject/gra/">URL:https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/subject/gra/</a>										
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)										
	総授業時数		270 単位時間		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		90 単位時間		うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(B:単位数による算定)										
	総授業時数		単位		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位		うち企業等と連携した演習の授業時数		単位
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		2人						
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		3人						
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人						
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人						
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人						
	計				5人						
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				2人							

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
鹿児島キャリアデザイン専門学校		昭和63年12月19日		東 祐二		〒 891-0141 (住所) 鹿児島市谷山中央二丁目4173番地 (電話) 099-267-2411			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人原田学園		昭和34年10月20日		原田 賢幸		〒 891-0141 (住所) 鹿児島市谷山中央二丁目4118番地 (電話) 099-268-3101			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化教養専門課程	グラフィック科 (アニメーションコース)		平成 27年度		平成 29年度			
学科の目的	グラフィック業界で必要とされるコンテンツ制作の技術、知識や柔軟な思考力・豊かな人間性を有し、さらに創造力・リーダーシップ・問題解決力に優れた、クリエイター業界にとどまらず社会が必要とするエンターテインメント性を有する人材を育成する。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能資格:色彩検定1~3級、UC級 中退率:10.5% 色彩検定協会 2022年度表彰団体(専門専修学校・其他学校の部) 色彩検定協会奨励賞								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼	※単位時間、単位いずれかに記入 1,710 単位時間 単位		225 単位時間 単位	225 単位時間 単位	1,260 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)					
80人	42人	0人		0%					
就職等の状況	■卒業者数(C)		18人						
	■就職希望者数(D)		16人						
	■就職者数(E)		13人						
	■地元就職者数(F)		9人						
	■就職率(E/D)		81%						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		69%						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		72%						
	■進学者数		0人						
	■その他								
	(令和 4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等		(令和4年度卒業生) アニメ業界、イラストレーター、製造業、公務員ほか							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無						
※有の場合、例えば以下について任意記載		評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL			
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/subject/gra/">URL:https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/subject/gra/</a>								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)		総授業時数		270 単位時間				
			うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		90 単位時間				
				うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間			
				うち必修授業時数		270 単位時間			
				うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		90 単位時間			
				うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間			
				(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間			
		(B:単位数による算定)		総授業時数		単位			
				うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位			
				うち企業等と連携した演習の授業時数		単位			
				うち必修授業時数		単位			
				うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位			
				うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位			
				(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位			
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		2人				
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		3人				
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人				
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人				
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人				
	計				5人				
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				2人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業や関係団体等と連携を図り、新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能を授業科目や授業内容に反映し、学生に教授していく為、企業や関係団体等からの意見を十分に活かし、カリキュラムを見直し、改善を図る等の教育課程の編成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

(1)の基本方針に従い、教育課程編成委員会を設置し、各学科の教科構成について実務に必要とされる知識・技術・技能などが、該当する学科のカリキュラムに反映されているかを確認する。  
教育課程編成委員会で指摘を受けた内容について、各学科にて分析・検討し、改善すべき項目を委員長である学校長に報告する。学校長が必要と判断した場合には、改善点を各学科の教育責任者に指示する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
深尾 兼好	全日本CM協議会 鹿児島CM合同研究会 会長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	①
池田 勝三郎	ヴァージョン 代表	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
木村 誠治	有限会社インパルス 取締役	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
寺園 淳一	株式会社MBCサンステージ 取締役	令和4年7月1日～ 令和6年3月31日 (1年9ヶ月)	③
東 祐二	鹿児島キャリアデザイン専門学校 校長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	—
池田 秀俊	鹿児島キャリアデザイン専門学校 グラフィック科科长	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	—
是枝 智美	鹿児島キャリアデザイン専門学校 マルチ系教員	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	—
小森 友美	鹿児島キャリアデザイン専門学校 マルチ系教員	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	—
久富木原 章裕	鹿児島キャリアデザイン専門学校 マルチ系教員	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	—
猪俣 翼	鹿児島キャリアデザイン専門学校 TV映像音響科科长	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	—
平原 大志	鹿児島キャリアデザイン専門学校 マルチ系教員	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。  
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年7月19日 14:00～16:25

第2回 令和5年3月13日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・グラフィック科の学生個人PCの導入

1年生から全員がノートPCを購入することになり、授業ではモニターに自分のPCを接続して受講することにより、以下のメリットが生まれた。

- ①自宅に授業時と同じPCがあることで授業の復習や演習が可能となり、各自の技術向上が図れる。
- ②講師は自宅でできる課題を出すことが可能となり、授業の進捗が従来より早くなることで教える技術等が増加する。
- ③オンライン授業が可能となり、何らかの理由で登校ができない場合でも授業を進めることができる。

・以前から提案があった、2Dコースの写真撮影特別講座を冬休みでの実施に向けて具体的に計画する。

デザイナーとしてカメラマンに指示する際に必要な写真撮影のスキルを磨く場を設けることで、就職後に活かせる。

授業はTV映像音響科の講師に依頼することになるため、冬休みに集中講座を開く方向で検討したい。

場所はライブ実習室を使用可能だが、機材(カメラ&レンズ)を準備する必要がある。

同時に授業可能なのは10名程度の為、グループに分けての授業で実施する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習、実技、演習等は専修学校の教育にとっては非常に重要なものであるため、常に最新の技術や技能を教授する必要がある。そのために本校と企業や関係団体等が密接に連携した体制を構築し、より実践的な職業教育の質の確保ができるよう組織的に取り組む。

また、連携を行う企業等とは協定書等を締結し、校内外で実施される実習・演習等について、指導内容やその学修成果の評価等も含めて、実践的な職業教育を行うものとする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

(1)の基本方針に従い、次の項目について連携を行う。

- ①カリキュラムの作成
- ②実習・演習の計画及び実施
- ③成績評価及び進級判定等に関する助言
- ④その他の実習運営上に必要となる事項

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
作品制作	「CG基礎」や「イラスト・色彩」「選択」等、専門科目の授業を通じて修得した技術を基に、各自でテーマを設け、オリジナリティを重視した作品を制作し、年2回実施の作品発表会(各学期末)にて、作品のプレゼンテーションを行う。自身の技術力を磨くとともに、スケジュール管理能力とプレゼンテーション力の向上を目指す。	有限会社インパルス

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員等の研修に関する諸規程第2条のとおり、教員は業務経歴や能力、担当する授業の分野に応じて、実務に関する知識、技術、技能の修得および学生に対する指導力等を修得するために、企業等と連携を図り、研修等を計画的に受講し、常に自己研鑽に努め、教育水準の向上を図る。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	著作権セミナー これだけは押さえておきたい!! 著作権の基礎知識	連携企業等:	東京都知的財産総合センター
期間:	令和4年5月18日(水)	対象:	教員1名
内容:	知的財産権の概要/著作権の権利体系/著作者人格権と著作財産権ほか		
研修名:	マンガ作りに学ぶ人を惹き付けるコンテンツの作り方2022 ~企画編	連携企業等:	デジタルハリウッド大学公開講座
期間:	令和4年6月24日(木)	対象:	教員1名
内容:	人を惹きつけるコンテンツの作り方/企画方法/実践		

研修名:	NFTビジネスの最新動向から、NFTプロジェクト推進の具体的な実務まで解説	連携企業等:	株式会社Too Digital Marketplace 株式会社Too
期間:	令和4年9月8日(木)	対象:	教員1名
内容	NFTビジネスに関する最新動向や、NFTプロジェクト推進に必要な具体的な実務を解説		
<b>②指導力の修得・向上のための研修等</b>			
研修名:	多面的にとらえる「心理的安全性」の本質	連携企業等:	NTTラーニングシステムズ
期間:	令和4年6月1日(水)～オンデマンド配信	対象:	教員2名
内容	「発言しやすい環境づくり」だけでは陥る課題と推進策		
研修名:	大変化の時代に勝ち残る 専門学校経営戦略とは	連携企業等:	(株)FCEエデュケーション
期間:	令和4年6月15日(水)	対象:	教職員6名
内容	「2039年ショック」に備える専門学校の勝ち残り戦略、教育力の向上および主体的な学生を育成する教育機関になるために		
研修名:	心理支援の現状から見えること	連携企業等:	原田学園そうだん支援事業所
期間:	令和4年7月26日(火)	対象:	全教職員
内容	事例を交えた学園内の心理支援の状況報告と、そこから感じた教職員に必要なスキルのワーク		
研修名:	7つの習慣セルフコーチング	連携企業等:	(株)FCEエデュケーション
期間:	令和4年8月1日(月)、5日(金)、22日(月)	対象:	全教職員
内容	セルフコーチングスキル＝「ありたい自分になるために、客観的に自分と対話する技術」を身に付け、自分の「無意識の思い込み」に気づき、「自己対話力」を高める。		
研修名:	令和4年度新任教員研修会	連携企業等:	職業教育・キャリア教育財団 鹿児島県研究研修事業支部 委員会
期間:	令和4年8月23日(火)～25日(木)	対象:	教員3名
内容	「専修学校教育のあり方と授業実践」ほか専修学校教員として必要な基礎的知識の修得		
研修名:	能動的学修 (職業人としての汎用的能力を養うアクティブ・ラーニングの体験学習)	連携企業等:	職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和4年9月5日(月)、6日(火)	対象:	職員1名
内容	アクティブ・ラーニングが必要とされる背景と考え方について		
<b>(3) 研修等の計画</b>			
<b>①専攻分野における実務に関する研修等</b>			
研修名:	Illustratorで思い通りにデザイン(いろはシリーズ)	連携企業等:	Adobe
期間:	令和5年8月25日(金)	対象:	教員1名
内容	「クリエイティブに興味がある初心者向けの「最初の一歩」を応援するコンテンツについて		
研修名:	ChatGPT/Canva AIを使った業務・デザイン制作を超効率化する方法セミナー	連携企業等:	株式会社WEBESITE
期間:	令和5年9月28日(金)	対象:	教員1名
内容	AIを使った業務・デザイン制作を超効率化する方法セミナー		
研修名:	生成AIの利用に関するオンライン研修会	連携企業等:	学校DX戦略アドバイザー事務局
期間:	令和5年9月1日(金)、5日(火)、8日(金)、22日(金)、29日(金)	対象:	教員3名
内容	教育での生成AIの利用について、その方向性や活用事例等をシリーズで解説		
<b>②指導力の修得・向上のための研修等</b>			
研修名:	7つの習慣セルフコーチング スキルアップ研修	連携企業等:	(株)FCEエデュケーション
期間:	令和5年6月22日(木)、28日(水)	対象:	教職員6名
内容	「7つの習慣セルフコーチング講座」実施に向けてのスキルアップ研修		

研修名: 防犯研修	連携企業等: 職業教育・キャリア教育財団
期間: 令和5年7月21日(金)	対象: 全教職員
内容: 「さすまた」等を利用した不審者対応研修	
研修名: データから見る2024年度入学生に求められる学生指導とは	連携企業等: (株)進研アド
期間: 令和5年7月25日(火)	対象: 教職員8名
内容: 入学者数減少と学力低下が専門学校教育に及ぼす影響	
研修名: 新任指導力(メンタリング)	連携企業等: 職業教育・キャリア教育財団
期間: 令和5年8月9日(水), 10日(木)	対象: 職員1名
内容: 新任指導育成のための目標管理能力/新任の能力を引き出すためのメンタリング力の修得	
研修名: 令和5年度新任教員研修会	連携企業等: 職業教育・キャリア教育財団 鹿児島県研究研修事業支部 委員会
期間: 令和5年8月22日(火)~24日(木)	対象: 教員4名
内容: 「学生・教員のための実践心理」「専修学校における職業教育」ほか専修学校教員として必要な基礎的知識の修得	
研修名: 変化する社会に求められる人材の傾向と分析	連携企業等: ベネッセコーポレーション
期間: 令和5年9月20日(水)~22日(金)	対象: 教職員2名
内容: 社会の変化が及ぼす教育への影響, 企業への実態調査の報告, 専門学校の教育事例紹介	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針	
<p>教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について自己評価を行うことにより、学校としての組織的・継続的な改善を図る。また、自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施とその結果を公表することにより、適切に説明責任を果たすとともに、特色ある学校づくりを進めることにより、関連業界等のニーズを踏まえた質の高い職業教育を教授できるよう学校運営の改善と学校教育の発展を目指す。</p>	
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①学校の理念・目的は定められているか ②社会のニーズ等を踏まえた学生の将来構想を抱いているか ③学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ④各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	①学園の運営方針に沿った事業計画が策定されているか ②運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ③人事、給与に関する規程等は整備されているか ④教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ⑤情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 業界のニーズに沿った教育課程の編成を行っているか</li> <li>② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</li> <li>③ 学科等のシラバスは体系的に編成されているか</li> <li>④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</li> <li>⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</li> <li>⑥ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか</li> <li>⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</li> <li>⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</li> <li>⑩ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</li> <li>⑪ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか</li> <li>⑫ 職員の能力開発のための研修等が行われているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 就職率の向上が図られているか</li> <li>② 資格取得率の向上が図られているか</li> <li>③ 就職先企業を訪問するなどして卒業生の実態を把握しているか</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか</li> <li>② 学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</li> <li>④ 課外活動に対する支援体制はあるか</li> <li>⑤ 経済的支援制度利用についての情報提供を行っているか</li> <li>⑥ 必要に応じて保護者との連携が図られているか</li> <li>⑦ 卒業生への支援体制はあるか</li> <li>⑧ 高等学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>② 学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか</li> <li>③ 防災訓練を定期的実施しているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学生募集活動は適正に行われているか</li> <li>② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>③ 授業料等、徴収する金額はすべて明示しているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学校の収支のバランスは取れているか</li> <li>② 予算編成は教育目標・業務計画と整合性があるか</li> <li>③ 財務について会計監査を適切に実施しているか</li> <li>④ 財務の情報公開はされているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> <li>③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</li> <li>④ 自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか</li> <li>② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> <li>③ 地域に対する公開講座やイベント支援等を積極的に実施しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 留学生の受け入れを行っているか</li> <li>② 留学生の受け入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか</li> <li>③ 留学生の学修・生活指導等が適切に行われているか</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。



(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- (1) 「1.教育理念・目標」に関し、「学生がより教育理念・目標を理解しやすくするために行動指針を添えてはどうか」とのご意見をいただいた。目指す職業が異なっても、全学生が社会人としてふさわしい行動ができるよう、ディプロマポリシー等に基づいた行動指針の策定に向けて、検討を進めていく。
- (2) 「5.学生支援」に関し、卒業生への支援体制について改善の余地があるため、まずは卒業後にアクセスしやすくなるよう、ホームページの卒業生向けの内容を充実させる。そのうえで、Uターンや再就職等の更なる支援体制強化にも取り組んでいく。
- (3) 「9.法令等の遵守」に関し、個人情報保護、肖像権、法令順守等について様々なご意見をいただいた。学校で取り扱う個人情報は幅広いため、現状の取り組みを確認するとともに、職員一人ひとりがより高い意識を持って個人情報保護や法令順守を行えるよう、研修その他各種注意喚起を行っていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
重山 茂 仁	株式会社鹿児島頭脳センター IT事業部 次長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	卒業生
大橋 紘 一	社会福祉法人常盤会 顧問・理事	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	企業等委員
宮之原 明子	株式会社清友 代表取締役	令和5年5月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
新納 武彦	鹿児島情報高校 校長	令和5年5月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

**ホームページ** ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

[https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/files/joho-kokai/R04\\_gakkouhyouka.pdf](https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/files/joho-kokai/R04_gakkouhyouka.pdf)

公表時期: 令和5年8月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

情報提供の方法は、誰もが比較的容易にアクセスすることが可能な本校ホームページにて公表する。  
 また、企業や関係団体等の学校関係者に対しては、年度始めに学校関係者評価委員会を開催し、学校長より当該年度の運営方針等を説明し、様々な教育活動の情報の公表を行った上で、実践的な職業教育のための更なる連携を深めるよう依頼を行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①教育理念 ②学校の概要(連絡先等) ③学校の沿革 ④学則等 ⑤「鹿児島キャリアデザイン専門学校」の3つのポリシー
(2) 各学科等の教育	①修業年限・定員 ②学科紹介・取得可能な資格 ③「各学科」の3つのポリシー ④シラバス
(3) 教職員	①組織図・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	①就職支援 ②卒業後の進路(就職先一覧)
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②サークル紹介 ③施設紹介
(6) 学生の生活支援	①学生寮紹介
(7) 学生納付金・修学支援	①学生納付金(入学金・学費・併修費) ②奨学金・教育ローン ③各種免除制度
(8) 学校の財務	①財務諸表等
(9) 学校評価	①自己評価表 ②学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	①日本語科設置 ②アドバンス日本語科設置
(11) その他	①高等教育の修学支援制度における機関要件確認申請書 ②職業実践専門課程の基本情報について

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: [https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/school/joho\\_koukai/](https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/school/joho_koukai/)

公表時期: 令和5年9月29日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程グラフィック科2Dコース)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○		キャリアデザイン	学校生活上必要な書類作成や学校行事（学園祭やイベント大会等）におけるクラス内の話し合いを行う「クラス運営」の時間にとともに、科目「ビジネスマナー」の指導と連携しながら就職活動に必要な知識・技術・心構え等を修得し、スムーズな就職活動に繋げることを目的とする。また、適宜キャリアセンター職員による講義を実施する。	1 2通	60	4	○			○		○		
2	○		一般教養	就職試験で実施される一般教養問題に備えて様々な分野の問題に取り組み、就職試験対策を行う。	1 2通	60	4	○			○		○		
3	○		ビジネスマナー	社会人としての心構え、言葉遣い、電話対応等、正しい言葉遣いや電話対応などの基本的な知識や動作を学ぶ。教材をもとに基本を学習した後、応用へと発展させる。ロールプレイングを取り入れることで「解る」から「出来る」を目指し、2年次の就職活動に自信を持って取り組めるように学習する。	1 後2前	30	2	○			○		○		
4	○		コンピュータ基礎	現代社会で必須アイテムとなりつつあるグループウェアの概要やメールのマナー等の情報リテラシーを学ぶ。更に、ビジネスソフト（Word, Excel, PowerPoint）の基本操作を修得し、実務で活用できるようになることを目標とする。	1通	45	1	○			○		○		
5	○		CG基礎	PhotoshopとIllustratorの基本的スキルを修得し、DTPデザインの基礎についても学習する。	1前	120	4	○			○			○	
6	○		Webデザイン	Webサイトとして完成させる為のHTML化や、パーツ作成のテクニックなどのページ制作の細かなノウハウを修得する。	1前	30	1				○	○			○
7	○		映像編集・加工	映像と合成に関する基礎知識を深め、ソフトの基本操作を修得する。	1通	60	2				○	○			○

8	○		CG応用	1年次に修得した映像編集・加工の技術とWebデザインの技術を更に向上させ、それぞれ実践レベルの技術を修得するとともに、UX/UIのデザインの理解を深めた上でのコンテンツ制作を行なう。各項目ごとに課題を出し、課題制作において技術を身に付ける。	2通	60	2			○	○				○	
9	○		イラスト・色彩	テーマに沿って、キャラクターデザイン・ポストカード等の作成をしながら、手描きのイラストの技術を修得する。	1通	60	2			○	○				○	
10	○		デッサン	物の形をよく見て、観察し、陰影や構図、量感、質感、全体感など基礎知識を学び、デッサン力を習得する。	1通	60	2			○	○				○	
11	○		色彩検定	色が見えるしくみや、混色、色の分類と三属性、色彩心理や色彩調和等、色に関する基礎知識を身に付ける。また、色のユニバーサルデザインについても学習し、色覚特性の多様性や、多くの人にわかりやすい色彩設計法を学ぶ。色の違いを見極め、色がもたらす効果を把握し、他の科目で作品制作を行う際、目的に沿った配色を行えることを目標とする。2年次6月実施の色彩検定（色彩検定協会主催）3級合格を目指す。	1通 2前	75	4	○	△		○				○	
12	○		グループワーク	実際の業務に沿った流れでチームごとに案件（課題制作）に取り組み、実践的で専門的な技術と、業務に取り組む際に必要な発想力や行動力を修得する。チームとしての行動意識、スケジュール管理、プレゼンテーション力を身に付けることを目標とする。	1後 2通	300	9	△		○	○				○	
13	○		作品制作	「CG基礎」や「イラスト・色彩」「選択」等、専門科目の授業を通じて修得した技術を基に、各自でテーマを設け、オリジナリティを重視した作品を制作し、年2回実施の作品発表会（各学期末）にて、作品のプレゼンテーションを行う。自身の技術力を磨くとともに、スケジュール管理能力とプレゼンテーション力の向上を目指す。	1後 2通	270	9	△		○	○				○	○
14	○		グラフィックデザイン	PhotoshopとIllustratorの実践的な技術を学ぶと共に、デザインの理論を学び実践力を修得する。	1 2通	480	16			○	○				○	
合計					14科目	1710単位時間（62単位）										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：日数が、各学年の出席すべき日数の3分の2を超えており、教科の出席が時数の3分の2を超え、かつ教科の成績が不可（60点未満）でないこと。また、授業料等が完納していること。		1学年の学期区分	2期
履修方法：一般科目、専門科目共に全科目を必修とする		1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程グラフィック科3Dコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			キャリアデザイン	学校生活上必要な書類作成や学校行事（学園祭やイベント大会等）におけるクラス内の話し合いを行う「クラス運営」の時間にするとともに、科目「ビジネスマナー」の指導と連携しながら就職活動に必要な知識・技術・心構え等を修得し、スムーズな就職活動に繋げることを目的とする。また、適宜キャリアセンター職員による講義を実施する。	1 2通	60	4	○			○		○		
2	○			一般教養	就職試験で実施される一般教養問題に備えて様々な分野の問題に取り組み、就職試験対策を行う。	1 2通	60	4	○			○		○		
3	○			ビジネスマナー	社会人としての心構え、言葉遣い、電話対応等、正しい言葉遣いや電話対応などの基本的な知識や動作を学ぶ。教材をもとに基本を学習した後、応用へと発展させる。ロールプレイングを取り入れることで「解る」から「出来る」を目指し、2年次の就職活動に自信を持って取り組めるように学習する。	1 後2前	30	2	○			○		○		
4	○			コンピュータ基礎	現代社会で必須アイテムとなりつつあるグループウェアの概要やメールのマナー等の情報リテラシーを学ぶ。更に、ビジネスソフト（Word, Excel, Power Point）の基本操作を修得し、実務で活用できるようになることを目標とする。	1通	45	1		○		○		○		
5	○			CG基礎	PhotoshopとIllustratorの基本的スキルを修得し、DTPデザインの基礎についても学習する。	1前	120	4		○		○			○	
6	○			Webデザイン	Webサイトとして完成させる為のHTML化や、パーツ作成のテクニックなどのページ制作の細かなノウハウを修得する。	1前	30	1			○	○			○	
7	○			映像編集・加工	映像と合成に関する基礎知識を深め、ソフトの基本操作を修得する。	1通	60	2			○	○			○	

8	○		CG応用	1年次に修得した映像編集・加工の技術とWebデザインの技術を更に向上させ、それぞれ実践レベルの技術を修得するとともに、UX/UIのデザインの理解を深めた上でのコンテンツ制作を行なう。各項目ごとに課題を出し、課題制作において技術を身に付ける。	2通	60	2				○	○									○		
9	○		イラスト・色彩	テーマに沿って、キャラクターデザイン・ポストカード等の作成をしながら、手描きのイラストの技術を修得する。	1通	60	2				○	○									○		
10	○		デッサン	物の形をよく見て、観察し、陰影や構図、量感、質感、全体感など基礎知識を学び、デッサン力を習得する。	1通	60	2				○	○									○		
11	○		色彩検定	色が見えるしくみや、混色、色の分類と三属性、色彩心理や色彩調和等、色に関する基礎知識を身に付ける。また、色のユニバーサルデザインについても学習し、色覚特性の多様性や、多くの人にわかりやすい色彩設計法を学ぶ。色の違いを見極め、色もたらす効果を把握し、他の科目で作品制作を行う際、目的に沿った配色を行えることを目標とする。2年次6月実施の色彩検定（色彩検定協会主催）3級合格を目指す。	1通 2前	75	4	○	△		○										○		
12	○		グループワーク	実際の業務に沿った流れでチームごとに案件（課題制作）に取り組み、実践的で専門的な技術と、業務に取り組む際に必要な発想力や行動力を修得する。チームとしての行動意識、スケジュール管理、プレゼンテーション力を身に付けることを目標とする。	1後 2通	300	9	△			○	○										○	
13	○		作品制作	「CG基礎」や「イラスト・色彩」「選択」等、専門科目の授業を通じて修得した技術を基に、各自でテーマを設け、オリジナリティを重視した作品を制作し、年2回実施の作品発表会（各学期末）にて、作品のプレゼンテーションを行う。自身の技術力を磨くとともに、スケジュール管理能力とプレゼンテーション力の向上を目指す。	1後 2通	270	9	△			○	○										○	○
14	○		3DCG	3DCGの基礎的知識と、Mayaのオペレーションの基本から応用までを修得する。	1 2通	480	16				○	○										○	
合計					14科目	1710単位時間（62単位）																	

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
日数が、各学年の出席すべき日数の3分の2を超えており、教科の出席卒業要件：が時数の3分の2を超え、かつ教科の成績が不可（60点未満）でないこと。また、授業料等が完納していること。		1学年の学期区分	2期
履修方法：一般科目、専門科目共に全科目を必修とする		1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程グラフィック科アニメーションコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			キャリアデザイン	学校生活上必要な書類作成や学校行事（学園祭やイベント大会等）におけるクラス内の話し合いを行う「クラス運営」の時間にするとともに、科目「ビジネスマナー」の指導と連携しながら就職活動に必要な知識・技術・心構え等を修得し、スムーズな就職活動に繋げることを目的とする。また、適宜キャリアセンター職員による講義を実施する。	1 2通	60	4	○			○		○		
2	○			一般教養	就職試験で実施される一般教養問題に備えて様々な分野の問題に取り組み、就職試験対策を行う。	1 2通	60	4	○			○		○		
3	○			ビジネスマナー	社会人としての心構え、言葉遣い、電話対応等、正しい言葉遣いや電話対応などの基本的な知識や動作を学ぶ。教材をもとに基本を学習した後、応用へと発展させる。ロールプレイングを取り入れることで「解る」から「出来る」を目指し、2年次の就職活動に自信を持って取り組めるように学習する。	1 後 2 前	30	2	○			○		○		
4	○			コンピュータ基礎	現代社会で必須アイテムとなりつつあるグループウェアの概要やメールのマナー等の情報リテラシーを学ぶ。更に、ビジネスソフト（Word, Excel, Power Point）の基本操作を修得し、実務で活用できるようになることを目標とする。	1通	45	1	○			○		○		
5	○			CG基礎	PhotoshopとIllustratorの基本的スキルを修得し、DTPデザインの基礎についても学習する。	1前	120	4	○			○				○
6	○			Webデザイン	Webサイトとして完成させる為のHTML化や、パーツ作成のテクニックなどのページ制作の細かなノウハウを修得する。	1前	30	1				○	○			○
7	○			映像編集・加工	映像と合成に関する基礎知識を深め、ソフトの基本操作を修得する。	1通	60	2				○	○			○

8	○		CG応用	1年次に修得した映像編集・加工の技術とWebデザインの技術を更に向上させ、それぞれ実践レベルの技術を修得するとともに、UX/UIのデザインの理解を深めた上でのコンテンツ制作を行なう。各項目ごとに課題を出し、課題制作において技術を身に付ける。	2通	60	2			○	○						○	
9	○		イラスト・色彩	テーマに沿って、キャラクターデザイン・ポストカード等の作成をしながら、手描きのイラストの技術を修得する。	1通	60	2			○	○						○	
10	○		デッサン	物の形をよく見て、観察し、陰影や構図、量感、質感、全体感など基礎知識を学び、デッサン力を習得する。	1通	60	2			○	○						○	
11	○		色彩検定	色が見えるしくみや、混色、色の分類と三属性、色彩心理や色彩調和等、色に関する基礎知識を身に付ける。また、色のユニバーサルデザインについても学習し、色覚特性の多様性や、多くの人にわかりやすい色彩設計法を学ぶ。色の違いを見極め、色がもたらす効果を把握し、他の科目で作品制作を行う際、目的に沿った配色を行えることを目標とする。2年次6月実施の色彩検定（色彩検定協会主催）3級合格を目指す。	1通 2前	75	4	○	△		○						○	
12	○		グループワーク	実際の業務に沿った流れでチームごとに案件（課題制作）に取り組み、実践的で専門的な技術と、業務に取り組む際に必要な発想力や行動力を修得する。チームとしての行動意識、スケジュール管理、プレゼンテーション力を身に付けることを目標とする。	1後 2通	300	9	△		○	○						○	
13	○		作品制作	「CG基礎」や「イラスト・色彩」「選択」等、専門科目の授業を通じて修得した技術を基に、各自でテーマを設け、オリジナリティを重視した作品を制作し、年2回実施の作品発表会（各学期末）にて、作品のプレゼンテーションを行う。自身の技術力を磨くとともに、スケジュール管理能力とプレゼンテーション力の向上を目指す。	1後 2通	270	9	△		○	○						○	○
14	○		アニメーション	アニメーション制作の基礎、キャラクターデザイン、背景の作成技術を修得する。	1 2通	480	16			○	○						○	
合計				14科目	1710単位時間（62単位）													

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 日数が、各学年の出席すべき日数の3分の2を超えており、教科の出席が時数の3分の2を超え、かつ教科の成績が不可（60点未満）でないこと。また、授業料等が完納していること。		1学年の学期区分	2期
履修方法： 一般科目、専門科目共に全科目を必修とする		1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。